

2025年1月8日(水)

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆24年11月の税収、11%増 法人税が堅調

・財務省は2024年11月の国の一般会計税収が前年同月比で11.0%増の10兆4308億円だったと発表した。法人税が21.7%増の5兆2621億円と堅調。企業の好業績で3月期決算法人の中間申告分の納付が伸びた。消費税は横ばいの2兆6084億円。法人からの中間納付が伸びた一方、税収の減少要因となる還付金が増えた。

◆米長期金利4.6%台、インフレ懸念 国内金利にも波及

・米国の長期金利に対する上昇圧力が強まっている。足元の米長期金利は4.6%台と、2024年9月の米利下げ開始から3カ月あまりで1%超上昇した。関税強化や大型減税といったトランプ次期米政権の政策がインフレにつながると思惑から債券売りが膨らんだ。こうした金利の上昇圧力は日本の国内金利にも波及している。

◆日本の2024年平均気温が過去最高 平年を1.48度上回る

・気象庁は2024年の日本の平均気温が、平年値(20年までの30年間平均)を1.48度上回り、1898年の統計開始以降で最も高くなったと発表。2023年の平年プラス1.29度を超え、2年連続で記録を更新。年の平均気温は上位6番目までを19～24年が占め、高温の傾向が続いている。月別では4、7、10月で過去最高になった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆空き家の確率をAI判定 水道使用量などの情報で分析—国交省

・国土交通省は、自治体を持つ行政情報を掛け合わせて、区域内にある建物が空き家かどうかを判定するシステムを開発。水道使用量や住民基本台帳、登記簿といった情報を使って、建物が無人である確率をAIで算出。外観だけでは判別しにくい空き家もあり、早期に発見し売買・賃貸利用、倒壊する前での解体が狙い。

◆伸銅品生産量、24年11月2.1%減 家電向け低調

・日本伸銅協会がまとめた2024年11月の伸銅品生産量(速報)は前年同月比2.1%減の5万5150トンだった。マイナスは2カ月ぶり。情報家電や生活家電向けの需要が低調だった。全14品種のうち8品種が前年同月を下回った。最も生産量が多い銅条は5.5%減の2万556トンと3カ月ぶりのマイナスだった。

◆郊外マンション、10年で1割狭く 専有面積が都心並みに

・「部屋の広さ」を売りにしてきた東京郊外マンションに異変が起きている。埼玉県などで発売された新築物件の平均専有面積は10年前から約1割減り、東京23区と同水準になった。建築コストが膨らんでいることが背景。購入者の広さの優先順位は下がっており、都心ではコンパクト住戸も目立ち始めた。

《 注目商品 》

■パナソニック、リフォーム対応の内装建材「ベリティス」

・インテリア建材「ベリティス」のリフォーム対応製品を拡充して2月3日に発売。コンセプトを「壊さず新しく」「躯体や間取りにフィット」「搬入や取付けが簡単」「空間にフィット」「暮らしにフィット」の5つに整理。コンセプトに基づいた製品を新たにラインアップ。



■ミドリ安全、理研計器と共同でガス検知器と連動したファン付き作業服

・ガス検知器と連動したファン付き作業服を新たに開発。ガス検知器が危険を感じると自動的にファンの動作を停止させ、ガス爆発事故などのリスクを未然に防ぐ。防爆エリア外での作業安全性も高める商品として開発。2025年3月の発売を予定。



■ハウステック、非日常を味わうバスルーム「雅月(みやびつき)」

・非日常を味わいながら、浴室空間としての快適さを損なわない完全受注生産モデルのシステムバスルーム。一般的な戸建住宅やリフォームにも取り入れやすいよう、1坪サイズを新たにラインアップ。木曽檜、樹脂コーティングした天然檜で、耐久性に優れた浴槽を採用。

